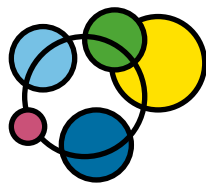


そわにえ
Soigner
第28号



「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2014年12月20日発行

発行／東京訪問看護ステーション協議会(責任者 嶋森好子)
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9F
株式会社プロコムインターナショナル内
TEL: 03-5520-8824 / FAX: 03-5520-8820
<http://www.tokyohoukan-st.jp>

INDEX／	訪問看護サミット……⑤
ぼん・くらーじゅ ……①	学会に参加して……⑤
特集:	ステーション紹介……⑥
訪問看護教育ステーション事業 ②	編集後記他 ……⑧



レインボーブリッジからお台場を臨む

日本は少子・超高齢化社会に突入したことで、急性期医療中心型(病院)から療養支援型(地域システムの活用)へと保健・医療制度を改革し、その制度の定着と在り様への理解が求められている。新たな医療制度は高齢者支援を視野に構築されたものであり、そのキーワードは「最後まで住み慣れた地域でその人らしく生活すること」である。この制度の推進の鍵を握るのは「訪問看護」であると考え。

高齢者の入院は、それ自体がリスクとなる。住み慣れた自由な自宅での生活とは異なり、病院の生活は“病氣”を主としたものであり、制限的で自由が少ない環境にある。高齢者にとって急激な環境変化は、予想以上に認知や精神にダメージを及ぼす。興奮したり攻撃的になったり、認知症が進行したりすることがある。さらに重大なことは、急激な筋力低下である。高齢者が病氣回復後、自宅に戻り元

訪問看護への期待
 — 高齢化社会における地域・病院連携 —
 東京医科大学病院
 副院長・看護部長
中野八重美

の生活をしたいと望んでも、日常生活に支障が生じるほどの筋力低下があれば、容易に自宅へは戻れない。病院看護支援の限界を感じる瞬間でもある。高齢者支援で重要なことは、衰えつつある身体機能を引き出し少しでも長く維持し、住み慣れた人々(地域)に囲まれ暮らすことで心の平穏と満足感を得られるようにすることでもある。病氣を抱えながらも住み慣れた地域で暮らすことはその人の“生活の質”としても重要であると考え。

Bon Courage
ぼん・くらーじゅ

これからの訪問看護は、これまで以上に病院と連携し、チーム医療者の一員として協働する役割を担うことである。そして、訪問看護側から対象者の問題などについて病院側に積極的に発信することが大切である。地域で高齢者を支える“要”として活動することを大いに期待している。